

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時より独自の理念がある。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各職員の名札に記入し、玄関に理念を掲げており、常に意識して仕事している		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議等を通じて家族や地域の人に理解と協力を求めている。	○	利用者が地域に出て行くことが多いので、地域の人もホームに気軽に訪れることができるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年に3回程度少し離れた地域からも、小さな子どもとお母さん達が遊びに来てくれる。	○	地域の行事を含めてかわり持つ機会を増やせるように自治会役員の人と相談していきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	村祭り、とんどなど地域の行事には積極的に参加している。	○	同 上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの為にボランティアを依頼しているが、ホームの機能を地域に役立っているとは言えない。	○	地域行事に参加するだけでなく、準備や手伝いなど利用者が参加できるようなことで協力していきたい
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容を検討して、改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいること、行事や利用者の様子等、事業内容報告して、助言を受けて参考にしている。	○	参加者の方から積極的に意見を出していただき、サービスの向上に反映させていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告も含めて連絡を取っている。	○	サービスの内容について相談する機会を持ち、協力を得ていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居されている方の中にもすでに利用されている方がおられる。又、他の方からの相談に応じて、必要な方には紹介もしている。		年間の新人・現任者研修計画書の作成が望ましい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでは常に見守りを行い、事例が発生した場合は、被害を受けた利用者の保護、加害者に対する適切な処置を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づいて、契約の内容、ホームでのくらしについて口頭で説明し、書面を確認していただき理解していただくようにしている。	○	適宜、重要事項説明書の内容をわかりやすい文章に変えていく。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者会議を設けて意見、不満、苦情を聞くだけでなく、適宜個人的に直接聴いて、改善していくようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については3ヶ月毎に領収書、明細書を送り、健康状態については、適宜、面会時、電話等で知らせている。又、毎月利用者に家族宛に葉書を書いてもらっている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が直接聴く他、第三者機関を紹介している。意見は運営していく上で、参考にさせてもらっている。	○	気兼ねなく、話が出来る雰囲気作り、配慮に心がけたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議以外に相談、意見があればその都度、管理者と職員が話し合うようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事、利用者の状況に合わせた勤務体制にしており、必要な場合勤務変更等で柔軟に対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員員の異動や離職が多い。	○	その都度利用者に説明をしたり、不安を抱かないように声掛けしている。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修を例年9月に実施し参加している。必要な研修、希望する研修は参加できているが、十分な機会を確保しているとはいえない。毎月ホームや隣接する特養との勉強会をしている。		重度化や終末期に向けた事業所の方針を明文化したマニュアルを作成し、職員教育を行い、統一した理解と認識が望まれる。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会は実施していないが個々のグループホームと交流する機会をもつことはできている	○	地域の同業者と交流できる機会を十分持てるように検討していきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦、慰労を目的とした旅行や行事を行っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員員の能力、適正、又希望を考慮して、必要ならば異動等の人事交流を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が自ら求めていることを表現することは難しいと思われるので、家族の抱えている問題も含めて家族、本人と話すことにしている。	
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接話を聴くだけではなく、電話での相談にも乗っている。	
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームへの入居を勧めるのではなく、他のサービスが適切と思われる場合は、他の事業所を紹介している。	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を含めてホームの雰囲気を知ってもらえるようにしている。入居時はすぐに家に帰れる体制を作るなど家族と相談しながら行っている。体験的に短期使用が利用も	
27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や若い頃されていた仕事の話聞き、参考にさせてもらっている。得意料理を作って頂いたり、畑など園芸作業に参加してもらおう機会を作っている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族に利用者の昔のことを聞いたり、何を望まれているか一緒に考えて支援している。何かあればすぐに連絡を取り報告している		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が介護負担を感じることなく、利用者の良い関係でいられるように、面会時等に職員が配慮している。また、必要に応じて職員も話に加わる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人に可能な限り会える機会を提供し、又昔行かれていた理髪店を利用できるように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人と外出できるように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に変わられても、近ければ時々顔を見に行ったり話したりしている。又、家族にもいつでも来てほしいと伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33 ○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月利用者会議を開き一人ひとりに意見を聞いている。意見を言えない利用者に対しては過去の生活歴、好み等を配慮して少しでも快適な生活を送ってもらえるように努めている。	○	困難な場合は利用者の過去の様子、表情など出来る限る気持ちを理解し、その人に合った支援をしていきたい。
34 ○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時等に利用者の若い頃の様子をしっかり聞き、又本人から普段の会話の中から聞いたりしているが、まだまだ不十分。	○	好まれる事や趣味、生活環境等本人が望んでいることに出来る限り近づけたい
35 ○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方を利用者との関わりから観察している。一人ひとりが出来ることを役割としてもらい行ってもらっているようにしている。		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族との話の中からの情報を元に出来る限り臨まれるようにし、又必要に応じて医療機関と相談して、職員全員で介護計画案を作成している。		
37 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に伴い、その都度家族、医療機関など相談しながら見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌、ケース記録、申し送りノートや医療記録を活用して情報を共有して利用者の状況を把握するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助・入院中の面会・個別の買物の同行など家族の希望や要望に合わせて対応している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実習生の受入れ、子育て学習センター、保育園、小学校との交流も盛んにおこなっている。	○	外出支援などボランティアの受け入れを積極的に行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はホームのサービスのみですが、必要があれば特養のケアマネジャー等と相談できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に取り組みは現在行っていない	○	今後必要があれば対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医から情報をもらい、毎週往診してくれるホームのかかりつけ医と相談しながら健康管理の支援をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院が精神科が主な病院なので、近隣ということもあり、迅速な対応をしてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、相談に乗ってもらったり、処置の方法を教えてもらう等支援を受けている。なじみの看護師が毎週ホームを訪れてもらうことが継続できているので利用者も安心して見てもらうことが出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、ほぼ毎日のように見舞いに行き、看護師より日々の様子を聞き、情報交換している。可能であれば他利用者も一緒に行くなどして安心出来るようにしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、看護師、家族とホームで話し合い、出来る限り家族の要望に応えるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、訪問看護ステーションの協力を得ながら、ホームのできることを見極めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り先にホームでの状況しっかり情報提供し、又本人や家族に対しても移り先の情報を伝えて相談に乗って少しでもあんしん。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴に基づいた自尊心を損なわないような接し方をし、個人情報同意書を得る等取り扱いに注意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事のメニューは出来るだけ利用者の好みを取り入れている。行事や余暇活動の参加なども本人の意思で参加不参加を決めてもらっている	○	日頃のかかわりの中で本人が決められることは出来るだけそれに沿って実行し、会話が困難な人はしぐさや表情から判断しており、今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活している利用者には見守りをしている。しかし、全体の流れは職員が作ってしまっている面もある。	○	その人の生活習慣に沿った流れを少しでも取り入れていくよう努力したい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員と一緒に着る服を選んでいく。外出時には化粧するように促して、手伝っている。理容・美容は本人が以前から利用しているところに行くなど希望に応じている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味見、食器洗い等出来ることは職員と一緒にやっている。		
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は特に制限はないが日常的に飲む人はいないが、希望があれば飲んでいただく。。おやつは好みのものを買物してもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握して、訴えがなくてもパットを付けていてもトイレに誘導している。チェック表を記入し定時排泄を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日は決めているが、曜日、回数も利用者の希望に合わせている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後等横になったり、昼寝等利用者の生活リズムに合わせている。冬は湯たんぽを使っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることを役割として持ってもらい行えるように支援している。また、買物、外食等希望に沿えるようにしており、買い物外出日の設定を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し自分で管理できる利用者には所持してもらっている。買い物時に使用したりしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者からの希望があれば買い物外出日以外でも買い物にでかけたり、近隣の施設に家族が入所されている方に対して面会行ってもらったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望により家族と一緒に出掛けることができるよう送迎等を行い支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全居室に電話の配線がしてあり、電話を置くことは可能。又、電話したいとの訴えには、公衆電話、事務室の電話を使用できるようにしている。又毎月葉書きを出してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者には利用者と一緒に居室でお茶を飲んだり食事をしてもらったり、ゆっくりと過ごせるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	就寝時ベッドより転落する危険性のある利用者に関して、家族と相談して同意の上ベッド柵を1本使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、勝手口は基本的には施錠していない。居室のベランダ側は家族と相談して施錠している部屋もある		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	業務しながら常に存在を確認して、徘徊される利用者には徘徊を阻止せず、付き添ったりして見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	夜間、包丁等刃物は目に付かない所に保管し、洗剤、薬等は少し奥の方に置いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態について職員間で情報交換を密にして常に意識するようにしている。緊急時の対応マニュアルを作成している	○	常に意識を持てるように勉強会などを検討していきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作っている。A E Dの講習にも参加したりしているが定期的に訓練をおこなっているとは言い難い。	○	定期的な訓練を検討していきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、近隣施設と協力体制を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	来訪時に話し合ったり、急を要する場合は電話で話す等、家族と共有するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎週のDrの往診、訪問看護、朝・夕の申し送り等にかかわる職員全体で情報を共有している。		
74	○服薬支援 - 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬の種類、効果、副作用等を各ファイルに添付して確認しており、薬の変更後の変化も観察している。		
75	○便秘の予防と対応 - 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	Dr、訪問看護から指示・助言をもらいながら、水分補給や乳製品を摂取してもらうなどを行い、毎朝、散歩に行くようにしている。雨天時にはラジオ体操を行うなど体も動かすようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨き、義歯の管理は見守りや介助等その人に合わせて支援している。必要に応じて歯科受診している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の他、10時、15時のお茶の時間、外出時の水分補給等確認している。水分摂取しやすいよう居室に水筒を置くなどしている。又、必要に応じて食事・水分チェック表を用いて状態を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成している。手指消毒、手洗い、食器の熱風乾燥、夕食後のまな板、洗いかごの殺菌、消毒を行っている。玄関、トイレ、洗面所には手指消毒液を置いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日新鮮なものを仕入れ、納品された日付を記入、常備食は開封日を記入して賞味期限も確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や植木鉢に花を植えたり、玄関にベンチをおくなどやわらかい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節の小物を置いたりして季節感を持ってもらえるようにしている。食堂以外にも縁台、ソファ等を置いてどこでも座れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや冬にはコタツを設置したりしているがワンフロアのためリビングが広く見渡せてしまう。	○	利用者が過ごしやすい空間になるよう努力していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、使い慣れた家具、その他好みの物を置いてもらえるように説明して、協力を求めている。	○	家族から協力を得られないこともあるが努力していききたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気、換気扇等空気の入替えは常に気を配っており、温度調整は利用者の状況に合わせて適時職員が行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差がなく、手すり、床はクッション材を入れて転倒の衝撃をやわらげるように配慮している。トイレも車イスでも入りやすいように広めに作っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が分かりやすいようにドアに見やすい位置に張り紙をしたり、トイレの場所が分かるよう張り紙を刷るなどの工夫をして混乱の予防につながるようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外に花壇を作ったり、畑を作り、野菜の収穫したり、又ベランダに植木鉢を並べたり、物干し場を作り、利用できるようにしている		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)